

開講科目名 / Course	臨床看護援助技術演習	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 1 学期 / First	
開講区分 / semester offered	1 学期 / First	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	3	
主担当教員 / Main Instructor	石丸 智子	
担当教員名 / Instructor	石丸 智子、徳丸 由布子、篠原 彩、内倉 佑介、堤 恒貴、大矢 七瀬、井上 陽士、外池 桃子、高木 優衣、堀 裕子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	演習	
授業回数	15	
科目の目的と概要	本演習の目的は、学生が看護技術に関する自らの課題に主体的に取り組み、自己研鑽しながら、看護技術の定着と向上を図ることである。特に救命救急処置技術に関連した実技講習や課題事例に取り組む。	
到達目標	1. 救命救急処置技術に関する技術を実施できる。	
DPとの対応	3.看護の基盤となる専門知識・技能	
授業計画	<p>授業は原則2コマ続きで実施する</p> <p>01. オリエンテーション、課題事例について個人ワークを行う</p> <p>02-03. 課題事例の看護展開をグループで検討する</p> <p>04-05. 看護展開場面を録画し、動画を担当教員へ提出する。指導をうけ修正する。</p> <p>06-07. 検討した内容をグループごとに発表し、質疑応答を行う</p> <p>08-09. 一次救命処置（基礎講習）</p> <p>10-11. 止血・包帯法（基礎講習）</p> <p>12-13. 急変時対応で必要とされる診療補助技術（吸引、静脈路確保）の実技練習</p> <p>14-15. 急変時対応で必要とされる診療補助技術（12誘導心電図、気管内挿管の補助）の実技練習</p>	
その他の授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎講習と課題事例を用いたグループ演習で構成される。</li> <li>・基礎講習では、日本赤十字社の一次救命処置、止血・包帯法を学び、病院内だけでなく、普段の生活においても緊急時に必要な救急ケアが提供できるように学習する。</li> <li>・事例を用いた演習では、急変時の異常に早期に気づくことと、そこからの対応について、グループで検討・実践・発表・質疑応答を行う。</li> <li>・e-ラーニングシステム「Nursing Skills」で救急救命処置に関する9課題について、「テスト」を100%正解になるまで取り組み、救急救命処置技術の基本的な知識を習得する。</li> </ul>	
時間外学修	<p>事前学修：看護技術に関するe-ラーニング（Nursing Skills）及び課題事例について予習する（6h）。</p> <p>事後学修：課題事例*については、グループワークやシミュレータ（SCENARIO）等を用いて、復習する（6h）。</p> <p>*課題事例の実施期間は、基礎・成老年実習室を開放する。但し、土曜・日曜は原則として使用できない。</p>	
評価方法と評価割合	<p>評価は、基礎講習の修了40%、Nursing Skillsのテスト10%、課題事例の提出40%、演習態度 10%で行う。</p> <p>演習態度は基礎講習やグループワーク、発表会での参加度を評価する。また、原則100%出席とし、遅刻、欠席は減点対象とする。20分以内の遅れは遅刻とし、超える場合は欠席として取り扱う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。期限までに課題提出がない場合には単位認定不可とする。</p>	
テキスト	なし	
参考書	なし	
履修する上で必要な要件	なし	
その他		
教員の実務経験	有・無	有

	内容	石丸智子：病院の看護師 徳丸由布子：病院の助産師 高木優衣：保健師 その他、看護系教員8名程度が指導担当：全員が看護師経験を有する。
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	日本赤十字社救急法指導員：救急法の指導資格を有する。
実務経験をいかした教育内容	豊かな看護実践力を活かして、看護技術の原理や科学性の理解を促進させる。 対象者の急変時の看護技術の展開を考える示唆を与えながら支援する。	